

令和4年度大学コンソーシアム富山 「学生による地域フィールドワーク研究助成」事業募集要項

1 趣旨

大学コンソーシアム富山（以下「コンソーシアム」という。）に加入している富山県内高等教育機関（以下「県内高等教育機関」という。）に在籍する学生が、富山県内の地域がもつ課題について、地域と一体となって行う、解決方策の提言や課題解決のための実践的なフィールドワーク研究を支援することで、次の世代を担う学生と県内の地域との交流の拡大、連携を促進し、地域の活性化を高めるとともに、学生にコミュニケーション力や課題解決力を身につけてもらう。

2 募集する助成対象研究の内容

(1) 研究題目内容

A 自由研究部門

各自で設定した研究テーマ（上記趣旨に合致したもの）に基づき、県内においてフィールドワークを行い、そこにある魅力や課題を引き出し、県内の自治体等が今後取り組むべき、地域の魅力の活用や課題解決策等を提案する。

B 課題研究部門

県内自治体から提案のあった研究テーマ（別添）に基づき、県内においてフィールドワークを行い、地域の魅力の活用や課題解決策等を提案する。

(2) 助成対象研究

県内高等教育機関に在籍する学生が所属するゼミナール（講座、専攻）等（プロジェクト授業を含む）の専門性を活かし、教員の指導のもとに学生が実施する県内でのフィールドワーク研究であること。

(3) 助成金額及び助成件数

助成金額：1研究当たり20万円を限度とする。

助成件数：合計10件程度

(4) 助成対象経費

交通費（学生及び学生引率の指導教員に係るもの）、消耗品費（研究上必要な新型コロナウイルス感染防止対策に係る消耗品を含む）、通信費、会場使用料、保険料、その他研究に要する経費等とする。

ただし、賃金、謝金、備品購入費、飲食費及び応募する研究目的以外の経費は除く。

3 募集締切日

令和4年3月4日（金）（必着）

4 研究期間

本助成金の対象となる研究は、令和5年1月31日（火）までに終了するものとする。

5 応募方法及び応募書類

- (1) 助成対象となる研究を提案する代表学生（入学予定の学生を含む）は、所属するゼミナール（講座、専攻）等（プロジェクト授業を含む）の指導教員を経由して提出すること。
- (2) 指導教員は、応募書を各大学等の事務担当に提出し、各大学等の事務担当は応募締切日までにe-mailまたは郵送により、次項の送付先まで提出するものとする。
- (3) 応募については別紙様式1によること。（採択決定後に1年生等のメンバー追加可能）

6 応募書の提出先

提出先は以下のとおり。

(e-mail) info@consortium-toyama.jp

(郵送) 930-0002 富山市新富町1-2-3 CiCビル5階
大学コンソーシアム富山事務局

7 審査及び交付の決定

- (1) コンソーシアムは、提出のあった応募書類について、審査委員会を設置し、助成対象研究を審査し、地域貢献部会において助成金の交付を決定する。
- (2) 地域活性化への寄与、研究成果の地域への還元等の観点を踏まえ、地域バランスに留意した上で決定する。
- (3) コンソーシアムは交付決定したときは、当該申請者に対し速やかに交付決定を通知する。

8 研究成果の報告

助成対象事業完了の日から30日を経過した日又は令和5年1月31日のいずれか早い日までに研究成果報告書(別紙様式2)をコンソーシアムに提出すること。

また、収支実績報告書(別紙様式3)については、研究目的購入品の支出完了後すみやかに各大学等の事務担当者からコンソーシアムに提出すること。

9 研究成果発表

- (1) 本助成を受けた研究は、令和5年2月下旬(予定)に開催する研究成果発表会において、研究成果を発表するものとする。
- (2) コンソーシアムは、研究成果報告書を関係者及び関係機関に配布する。また、コンソーシアムのホームページに掲載する。

10 表彰

提案内容をはじめ、研究成果発表会におけるプレゼンテーション等を審査し、別に定める表彰要項により「大学コンソーシアム富山地域研究賞」を授与する。

11 その他

フィールドワーク研究の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染防止に十分留意の上で取り組んでください。また、応募書等様式については、大学コンソーシアム富山のホームページに掲載してありますのでご利用ください。

URL http://www.consortium-toyama.jp/student_tiiki.html

[担当]

〒930-0002 富山市新富町1-2-3(CiCビル5階)
大学コンソーシアム富山事務局
Tel 076-441-2455 FAX 076-441-2456

学生による地域フィールドワーク研究助成「課題研究部門」課題一覧(令和4年度実施分)

No	自治体等名	地域課題名	概要
1	富山市 (都市計画課)	都市のスポンジ化対策について	富山市では、本格的な人口減少社会の到来により、空き家や空き地などの低未利用な都市空間が時間的・空間的にランダムに広がる「都市のスポンジ化」が都市問題として進行しており、計画的な開発や利活用を阻害し、生活利便性の低下、治安・景観の悪化、地域の魅力が失われる等の都市の生活環境や資産価値の低下を生じさせ、今後、本市のコンパクトなまちづくりの推進における阻害要因となることが懸念されています。 このため、富山市では空き家の利活用を促進する空き家バンクの運営、空き家リフォームなどに対する助成などの対策事業を推進しています。さらに、一部の市民や民間事業者等は、空き家や空き店舗に新たな利用価値を生み出すリノベーション、空き地の新たな利活用など、魅力的なまちづくり活動を展開してきており、低未利用の都市空間の資産価値を向上させる効果が期待されます。 都市のスポンジ化は同じ富山市の中においても地域によって様々な原因や形態で発生しているとともに、その対応策の効果や市民や民間事業者による取組実態も多様であると考えられます。このような現状から、本市では、都市のスポンジ化に対応する今後のまちづくりを進める上で、必要な現状認識、民間による魅力的なまちづくりを展開する仕組み、制度など多彩なアイデアや施策の提案を求めています。
2	高岡市 (都市経営課)	若者・子育て世帯への情報発信	高岡市では移住支援等に取り組んでいるところであり、とくに若者・子育て世帯を対象にした情報発信を強化したいと考えている。 ついでに、本市の移住・定住に関する情報発信の状況や補助メニューについて研究いただいたうえで、学生ならではの柔軟な視点で、若者・子育て世帯を対象とした効果的な情報発信手法の提案又は情報発信事業を実施してもらいたい。
3	滑川市 (海洋資源振興課)	海洋深層水・海洋深層水天日塩の市内での活用について	滑川市では海洋深層水・海洋深層水天日塩の特産品としている。どちらも市内外の企業等に利用いただいているが、滑川市内での活用については伸び悩んでいる。市としては市内での活用を増やし、「ホテルイカと海洋深層水のまち滑川」として市内経済の活性化を図るとともに、市内外にも広くPRしたいと考えている。 高等教育機関には、市内で飲食店をはじめとした幅広い事業者へ、活用していただくための方法について、調査し提案いただきたい。 (市内飲食店等への意識調査、深層水・塩を使った新規メニュー・商品の提案など)
4	射水市 (生涯学習・スポーツ課)	若い女性の運動・スポーツ参加促進策について	本市において週1回以上運動をしている人の割合を調査したところ、30代女性は27.3%であり、他の年代の女性や男性と比べてとても低く、市の目標値の65%に程遠い状況が分かりました。 このため、「運動したいけどジムに通うのは抵抗がある」、「忙しくてなかなか運動できない」といった若い女性の運動・スポーツ参加促進の方策を提案してください。
5	射水市 (都市計画課)	オールドニュータウン・太閤山の新たな暮らし方の調査・提案	◆地域の背景と現状 1960年代に開発が開始されてから約60年が経過する太閤山ニュータウン。全国の地方都市でも数少ないこの大規模ニュータウンは、射水市の中でも特徴的な歴史を持つ地区である。 地区内には商業地区(パスコなど)を核として、県営住宅などの賃貸住宅や戸建て住宅等の居住地区、県立大学や小学校等の文教地区が立地し、多様な人々を受け入れ、快適に暮らせるまちとして開発が行われた。 しかし、当時の入居した住民は高齢化を迎え、施設やインフラなどの老朽化もすすんでいることから、地区としての継承や再生の時期を迎えている。 ◆目的 そこで、太閤山地区が次を担う若者世代にとって「暮らしたくなる」地区になるためには、どのようなサービスや機能、場所があれば良いのかという提案を広く集めたい。 提案においては、「太閤山地区らしい暮らしとは何か?」「太閤山地区だからできることは何か?」という地区の歴史や文脈、固有性を大切にしたいアイデアであることがより好ましい。 ◆研究のテーマ例 ①呉西にも呉東にも商圏を広げられる立地性を活かし、副業やパラレルワーク、小商売のような柔軟な働き方がしやすくなるまちになるためには? ②不動産や自動車など、所有する文化からシェアする文化を取り入れることで暮らしやすくなるまちになるためには? ③県立大学が立地していることを活かし、学生が卒業後も太閤山地区に暮らしたくなるまちになるためには?
6	射水市 (農林水産課)	バイオマス事業の啓発について	本市は2014年にバイオマス産業都市に選定され、以下4つのバイオマス主要事業に取り組んでいる。 ①木質バイオマス活用(堆肥製造): 間伐材などを肥料化 ②廃食用油活用推進(BMF製造): 廃食用油と灯油から混合油製造 ③もみ殻の有効利用(熱利用(もみ殻燃焼)): 籾殻を燃焼させた熱をビニールハウスに利用及び籾殻灰の肥料化 ④木質バイオマス発電: 間伐材や輸入木材を原料とする発電 これらの事業が抱える課題として、採算ベースに乗せて稼ぐ仕組みづくりが難しい点が挙げられる。その一方で、世界中でSDGsやカーボンニュートラルの観点から、環境に配慮した事業が注目を集めており、本事業も広く関心を集める可能性を秘めている。 そこで、本事業をまずは市民に広く認知してもらい、バイオマス事業で生まれる製品についても、より多く活用していただけるようにPRするための研究提案をいただきたい。 <特記事項> 県立大学と共同で実施している「ひまわり大作戦」(ひまわりの栽培から、種子を用いたバイオディーゼル製造まで一連の工程を体験する事業)についても、バイオディーゼルの開発が中止となり、毎年ひまわりを育てているだけの事業になっている。 バイオマス事業の一環として、何か別の用途で活用したいと考えているが、何か良いアイデアがあれば併せてご教示いただきたい。

No	自治体等名	地域課題名	概要
7	上市町 (産業課)	上市スマート・インターチェンジ周辺の活用方法	<p>令和2年12月に上市町中江上地内に北陸自動車道「上市スマート・インターチェンジ」が開通し、次の課題が残りました。</p> <p>(1) インターチェンジの残地の活用方法（建設課との調整必要） (2) 国道8号へのアクセスが良く、富山地方鉄道 新宮川駅なども近い上市スマート・インターチェンジ周辺の活用考察（企画課と調整必要）</p> <p><特記事項> (1) 当該地域は、農業振興地域です。 (2) 新宮川駅は、無人駅で普通電車のみが停車します。 (3) 駅には、無料のパーク・アンド・ライド駐車場が整備されています。</p>
8	上市町 (産業課)	薬草を活用した地域振興	<p>薬都・富山であることを生かし、町の地域資源(=薬草)を活用した振興策を探る。 薬草について学び活用するワークショップやイベントの開催を通じて、大切な地域資源であることの認識を深める。 ※大学及び学生と連携し、薬草に関わる事業を実施したい。</p> <p><特記事項> (1) 富山県薬用植物指導センターとの連携が可能 (2) 町観光協会では、チベット医(アムチ)の小川康先生の協力によって、地域資源である薬草と親しむことを目的とした事業を展開中で、引き続き監修を受ける関係を有している。</p>
9	富山県 (健康課)	イタイタイ病の次世代への伝承について	<p>イタイタイ病は神通川流域で発生し、患者やその家族、地元住民等に深刻な影響を及ぼしてきたが、被害者団体、原因企業、行政など関係者のたゆまぬ努力によって、今日まで多くの困難を克服してきた。</p> <p>一方で、発生から長い年月が経過し、そうした歴史の風化が懸念されている。県ではイタイタイ病資料館を開館し、「イタイタイ病の恐ろしさ」や「克服の歴史」を国内外へ発信しているが、関係者の高齢化等もあり、次世代への伝承が今後の課題となっている。</p> <p>そこで、イタイタイ病のような公害が今後二度と繰り返されることのないよう、次世代にどのように伝えていくべきか、県・資料館としてどういった取り組み、事業が必要なのか、提言を求めるもの。</p> <p><特記事項> イタイタイ病資料館は来年で開館10周年を迎える (H24.4.29開館)</p>